

## 精神科医師

スーパーマンこと松崎昂英 ②

わしの約40年前の事である。上越新幹線の上毛高原駅と高崎駅の間にある「中山トンネル」を掘削中の大手ゼネコンの、大林組の現場で先進ボーリング中の穴（直径17センチ）から、突然圧力30キロの水が噴き出した、（消防車のノズルから出る圧力は15キロ）みるみる内にトンネルは水没してしまった。

350メートル地上から無数のボーリング孔を掘削して、圧力70キロで瞬間凝固剤（水に支ると3秒で固る）を高圧ポンプで注入し、約1年半がかりでようやく水を迎えることが出来た。

新幹線の開通は予定より大幅に遅れ、トンネル工事コストは日本で一番高いものになった。まだ高速道路がなく、わしは真冬の三国峠を2トントラックを運転して、週に2～3回現場に通った。猛吹雪で谷底から粉雪が舞い上がってくる。帰りのトラックは空車で、スパイクタイヤも効果が無い。群馬県側はアイスバーンで、チェーンを巻くとカーブで横滑りをして、かえって危険である。

タイヤの空気圧を抜いて設置面積を多くして、中間にある「猿ヶ京ドライブイン」までゆっくり昇る。

夕食後、トラック荷台の後部に雪を積んでスパイクタイヤの効きをよくする。

通常の仕事も忙しかったので、極端な寝不足が2ヶ月くらい続いた。ある日を境に3時間ほど眠ってトイレに起きた瞬間から頭が冴えて、全く眠気が感じられないようになった。

極端な寝不足から「そう病」に犯されてしまったのである。

精神科の目安は、プラス500ぐらいまでのアップは薬治療・1000のアップで入院。わしの場合は3000ぐらいまでアップして、手が着けられない状態だったらしい。

そこで、新津信愛病院（精神科）で全身麻酔の注射を打たれ、緊急移動……

目が覚めると柔道着のような上着を着せられ、両手首を縛られて自由にならない（両足は自由）。ここは何処だ？「新潟大学の精神科閉鎖病棟です。」俺は帰る」

看護人が二人かがり取り押さえようとしたので、足払いをかけて廊下のドアまで行ったが、鍵が掛かって出られなかった。

空手2段の主治医に押さえ込まれて、尻に再度全身麻酔の注視を打たれた。目が覚めると四畳半くらいの独房に入れられていた。モニターテレビで看護人から監視されている。

2ヶ月半入院した結果、回診に回って来た教授に対して「自分がそう病であったことを認めます」といったところ、貴方の場合は、そのことが分かれば退院して結構です……と言われた。

内科や外科の病気は、検査をすればほとんどの病状が分かる。精神科では脳波の検査くらいしか出来ない。患者との会話や動作を見て、医師が判断するしかない。